

## 「2023年度国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部4年 宮川 直也

- ① 今回の台湾への短期留学を通じて一層海外へ留学することへの意欲が高まった。様々な価値観や考え方を持つ学生と話し、台湾という異国の地で生活する日常は私の可能性を広げてくれた。特に台湾大学の学生をはじめ現地で知り合った人たちと政治や教育についても意見交換する機会がたくさんあり、政治的に複雑な台湾の現状、またそれについてどう彼らが受け止めているのかなど生の声を聞いたことはこの先の自分の人生においても貴重な経験であったと考える。また中国語の語学学習に留まらず、教育システムについても様々な違いを知ることができた。この秋からイギリスの大学院で教育学を専攻することが決まっており、この体験は自分の将来の学びにとって非常に有意義であったと思う。
- ② 台湾での経験として、やはり一か月程度現地で生活し文化に親しむことができたと感じる。日常レベルで言えば、台湾料理はとて身近に感じられるほどに慣れ親しみまた非常に美味しいと感じるものばかりだった。言語面では、台湾大学での毎日の中国語の授業は、初心者だった私でも最終日には3分程度の中国語のプレゼンテーションができるくらいに、私の語学学習にとって有益だった。それだけではなく、日常的には英語を使う機会が多く様々な学生と英語でコミュニケーションをすることで英語の重要性を痛感し、またこの短期間の間にも自身の英語力が向上したと実感することができた。
- ③ プログラム内容は毎日とても充実したものだだった。先ず毎日の中国語の授業は主にスピーキングやリスニングが中心のスタイルであり日本の外国語の授業とはかなり異なっていた。しかし自分はこのスタイルの方が外国語習得には適しているように感じられた。文法や単語帳中心の日本の授業よりも楽しく学習することができただけでなく学習した内容の定着も早かったと感じる。またそれ以外にもチューターが各クラスについており、台湾大学の学生である彼らと交流する時間は授業の内容の補習的な内容を行ってくれたり、またそれ以外も例えば台湾の文化や日常を教えてくれたり、一緒にご飯を食べに行ったりと親睦を深めることができた。さらに文化体験の授業も設けられており、カリグラフィーやランタン作り、また台湾料理を作って食べたりと様々なアクティビティが楽しめた。ワンデイトリップの日には台湾の様々な場所に行くことができた。ガイドさんや台湾大学の学生がその場所の解説をしてくれたただの観光では知りえないことなどを、たくさん学ぶことができた。本当に充実したプログラムの内容で台湾で過ごしたこの期間は宝物になった。
- ④ 今後はイギリスの大学院への進学が決まっており、台湾留学を通じて主体的に様々な学生と関わり意見を交わすことが重要であると改めて感じさせられた。また英語圏だけに絞って大学院も選んでいたが、台湾大学で学びアジアにも素晴らしい大学があることを知れたし、英語だけでなく中国語をはじめ様々な外国語をこれからのキャリアで習得していきたいというモチベーションを得ることができた。